

中央病院に設置されているMRI装置の外観です。

CTと見かけは似ていますが、撮影の原理が全く異なることを知っておきましょう。CTは放射線を使って撮影するのですが、MRIは強力な磁場を作って撮影するのです。

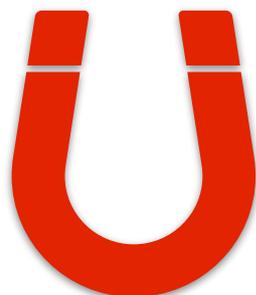
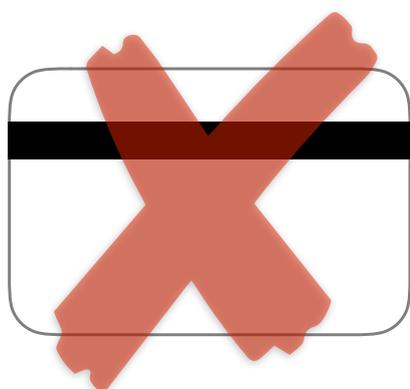
部屋に入る前に、体や衣服につけている金属は全て取り外す必要があります。間違って金属をつけたまま部屋に入ると、ものすごい勢いで装置に向かって飛んでいきます。大変危険です。

体の中の金属も撮影可能なのか、確認が必要です。



## 心臓血管外科★健康講座

MRIは、強力な磁力で画像を作成する装置です。金属によっては引き寄せられ大変危険です。一方、最近の人工弁、ステントグラフトはMRI撮影が可能となっています。



岩手県立中央病院心臓血管外科では、身近な医療の情報を解説した健康講座を県民の皆さんに提供します。第5号はMRI検査です。

MRI (Magnetic Resonance Imaging)は、さまざまな診療科で利用される撮影装置です。CTとは違い放射線を使わず、**強力な磁力**を用いて画像を作ります。このため、体の表面や衣服、さらには体の内部に金属がある場合、注意を要します。**外せる金属は全て外します**。クレジットカードなども磁力でダメになってしまいますので、財布なども持ち込めません。そのほか、意外なものが持ち込めないことがありますので、検査を受けるときに確認してください。



人工弁



ステントグラフト

心臓血管外科に限らず、他の診療科においても体の中に金属が入る治療を受けた患者さんは、そのことを理解し、MRIの撮影前にそのことを医師、看護師、検査技師に伝えることが重要です。

心臓血管外科の治療では、人工弁、ステントグラフト、胸骨ワイヤーが金属を含む代表的な医療材料となります。最近では、人工弁もステントグラフトも胸骨ワイヤーもMRI撮影が可能なものがほとんどです。

ただ、以前は絶対にMRI撮影してはならない人工弁もありましたので、自己判断せず、必ず実際に手術を行った心臓血管外科に問合せ、確認してから撮影しましょう。

ペースメーカーなども以前はMRI撮影してはいけない機種ばかりでしたが、最近では一部の機種がMRI撮影可能となっています。これも治療を行った循環器内科医、臨床工学技士に確認の上、撮影するようにしましょう。

MRIのような最新の医療機器は、病気の診断に大変有用で、その恩恵は絶大です。しかし、強力な磁場が発生していることなど、原理も理解し安全に検査を受けるよう注意しましょう。

岩手県立中央病院心臓血管外科

健康講座 第5号